令和５年度　宮崎県男女共同参画審議会　議事録

１　日　時

令和５年１２月１１日（月）　午前１０時から午前１１時３０分まで

２　場　所

宮崎県企業局　２階会議室

３　出席者

（１）委　員

伊達委員、中川委員、加納委員、冨山委員、足立委員、木島委員、
橋口委員、時任委員、鎌田委員、河野委員、渡辺委員、三田委員

計１２名

（２）オブザーバー

黒木氏、春田氏（ＴＮＡソリューションデザイン株式会社）
待山氏、川邉氏（宮崎大学）

（３）事務局

総合政策部次長（県民生活・サミット担当）
生活・協働・男女参画課長　ほか

４　議事

（１）第４次みやざき男女共同参画プランの推進状況について（資料１）
（２）若年世代との意見交換（資料２）

５　会議経過及び主な意見等

（１）総合政策部次長あいさつ
（２）会長の選任、会長職務代理者、苦情処理専門部会委員及び部会長の指名
（３）議事

事務局から説明を行った後、その内容等に関して委員から意見等が出された。また、若年世代との意見交換については、委員からの質問に対して、オブザーバーの社会人男女２名、大学生男女２名が回答を行った。

【議事１】

【委員】　男性の育児休業取得は重要だが､数日の取得ではなく､３ヶ月、６ヶ月、１年単位の取得者を増やすため、取得期間についてもモニタリングが必要。また、本当の意味で妻の家事・育児負担が緩和される取組も、今後実施していかなければならない。

【事務局】　昨年度の男性県職員の育児休業取得率は 44%、そのうち１週間以上は 42%、２週間以上は 39%。最長の取得期間は 363 日で、取得期間の平均は 52 日。

【委員】　民間企業については、厚生労働省が育児休業の取得状況を毎年調査しており、令和４年度の取得率は、女性が 80.2%、男性が 17.13%。取得期間の調査は、約 3 年おきに行われている。

【委員】　取得期間を伸ばすために必要なアプローチの根拠となるデータであるため、データを取る仕組みも考える必要がある。

【委員】　男性の育児休業取得率が 50%、100%という環境が整うことによって、他の項目の数値が上がることもある。各項目を横串で見ることで、社会は変わっていくのだろうと感じる。

【委員】　男性県職員の取得期間の平均が約 50 日は少ないので､取得を後押ししていく必要がある。

【委員】　学校においては、育児休業期間中に代わりをお願いする講師が不足しており、取りにくい状況が続いている。
　学校現場としては、人材不足の問題が解決しなければ、男性の育児休業取得は増えていかないと考える。

【議事２】

【委員】　日本は、男女間で賃金格差がある。社会人になり、性別等の属性により賃金や昇進等で待遇の差を感じたことはあるか。

【社会人】　今までの社会人経験の中で、感じたことはある。例えば、女性という理由で事務職になったり、本人が希望する部署ではなく､今後の結婚や出産を視野に入れて総務に移される方もいる。

【委員】　逆に、事務職や総務が良いと思っても、男性だから外の仕事にということはあるか。

【社会人】　ある。今までの上司に、男は稼ぐものという教育を受けてきたし、自分も家庭の大黒柱としてお金を稼がなければいけないと思っていたので、そういう認識があった。

【社会人】　新卒で今の会社に入社し、他の会社の経験がないので、性別による賃金の格差等は感じたことはない。それぞれのキャリアや子どもがいる等の理由から、本人が希望されて働いているので、誰かに強いられて働く時間を短くしたり、そのような職種にまわされたりというのを感じたことはない。

【委員】　時短で働く男性はいるか。

【社会人】　ほとんどおらず、疑問に思ったことはなかった。どこかで、女性が子育てをメインで行っているから女性が時短勤務なのだろうと思っていた。

【委員】　審議会では、どのように施策を進めていくのかを話し合っているが、自身の義務感について何か感じたことはあるか。

【社会人】　私は子供がおり、もともと育児休業を取得しようと考えて仕事も調整していたが、予定よりも早く生まれたことで、当初よりも大幅に短い期間になった。妻のサポートはしていたつもりだが、不足していたと思う。
　これからの時代、会社、組織として、男性が育児休業を率先して取れるように進めていくことが望ましいと考える。

【委員】　管理職についてはどのような考えか。

【社会人】　管理職になることで賃金も上がると思うので、なりたい。

【委員】　男女共同参画の視点から、どのような管理職になりたいか。

【社会人】　やはり女性が出産や育児をしやすい環境をつくるのは大前提だと考える。少子化等、今後の日本の状況を考えた時に、性別にかかわらず就職できるようにしていく必要がある。

【社会人】　私も管理職を目指したい。金銭面もだが、自身のスキルアップという点で、いろいろな経験を積んで、部下を持ちながら成長していきたい。

【委員】　ライフプランの質問について、卒業後は仕事をするか。

【学生】　大学３年生だが、卒業後は大学院に行き、その後は海外で仕事をしたいと考えている。

【委員】　その仕事は、ある一定の時期までなのか、それとも途中で仕事は変わるかもしれないが一生仕事をするのか。

【学生】　自分のキャリアアップのためなら、今の仕事を辞めても良いと思っている。仕事を辞めたとしても、何かしら続けられるものがあれば良いと考えている。

【学生】　仕事をする。学生と社会人では、社会における立場も異なると思っている。また、お金がなければ生活できず、親にも今まで学費を出してもらっているので、お返しという形で就職する。

【委員】　結婚、子育て、仕事のキャリアアップ等、ライフプランについては思い描いているか。

【学生】　大学４年生で就職も決まっているので、まずはどんどん吸収して稼いでという考えがある。一方、結婚や子育ては、まだ自分には遠いものと感じており、具体的なプランは考えていない。

【委員】　今までの議論を聞いていて、もし結婚して子供が生まれたとして、育児休業等どんな理想を考えるか。

【学生】　子供を授かったら、もちろん育児休業を取りたいし、取らなければならない社会になっていかなければならないと思う。

期間については、１年単位の取得が当たり前だと思っていたが、実際には １～２週間と聞いて少し驚いた。You Tuber の動画で育児の様子が流れているのを見るが、１～２週間で役目を果たして妻に引き継げるのか、不安に感じている。

【学生】　大学院に行く予定であるため、まだライフプランについてはあまり考えていないが、もし海外に行くことになった時に、どこで結婚するのか、海外での仕事との両立は難しいと思っており、どちらかを諦めなければいけないのかと考えることもある。
ただ、両立できている方もいらっしゃるので、私もそうなりたい。

【委員】　ロールモデルは、周りに大勢いるか。

【学生】　工学部は女性がもともと少ないが、就職説明会で様々な企業が来て下さったときに、これまでは男性の方ばかりだったが、最近は女性の技術者の方も増えており、２週間前にも、女性技術者の方で子育てもされている方が来て下さった。

【委員】　２点お話したい。
１点目は、やはり上に立つ人のあり方を考えていく必要があるということ。自治会長については、小さな地域で代表を決めていくので、上から何かすることはなかなかできない。
しかし、光を当てていくのは大事なので、女性の自治会長が頑張る姿を、様々なかたちで自治会に周知している。
３０数名の理事について、以前は女性がいなかったが、推薦枠を作り、女性理事からいろいろな意見を出していただいている。
２点目は、議員に女性が少ないが、女性、男性同じ票があるので、女性議員を増やしていくことで、政策にうまく反映されていくと考える。

【委員】　例えば、自治会長を打診された時に、自分の資質や特徴、性格も含めて、引っ張っていく方なのか、サポートする方なのか、得意な分野は当然男性でも女性でもあると思うが、やるやらないの判断になった時にどうか。

【社会人】　やると答える。

【学生】　やると答える。ただ、周りの友人に聞いたら、引っ張っていく立場は嫌だと言う人もいると思う。

【委員】　いろいろなキーワードが出たが、ロールモデルが大事なのだろうと思った。私の年代でも、例えば審議会の委員を依頼された時に、メンバーが自分以外全員男性だと躊躇する。自分の周りに、働きながら子育てもしている、自分が目指せるようなロールモデルがいることが一番早道なのだと思う。

また、先程の「育児休業を１年ぐらい取れると思っていた」という言葉がとても重く感じた。実際に今は、来年育休を取ろうと思って男性が全員１年間取得することは恐らくできない状況だと思う。ただ、取らざるを得ない状況というのは確かにあるので、「なぜ１年取れないのか」という声がどんどん上がってくると、もっと早く社会を変えていけると思う。

【委員】　「アンコンシャス・バイアス」という言葉を聞いたことはあるか。

【社会人】　本日の資料を見て初めて知ったが、例えば、私は学生の時に合唱をしていたが、その時、ピアニストの先生は綺麗なドレスを着ていた。本当はもっと弾きやすい格好で壇上に立ちたいという思いがあったかもしれないが、自分の中で、壇上に上がる女性は綺麗な格好をして演奏するのが当たり前という考えがあった。この言葉を聞くと、そういうのも思い込みだったのかなと思った。

【学生】　私も、資料を見て初めてこの言葉を知った。

大学で卒業研究を行っており、アンケート調査を行うが、少し昔の研究になると、「あなたの属性を教えてください」という項目で性別が男性女性のみであり、「分からない」「回答しない」がない。それがつい最近まであったということに気付き、回答を拒否する方や自分自身の属性が分からない方にとっては、アンケートの対象にもなっていないという疎外感があったのではないかと思った。

今は大分改善されているのかもしれないが、そういう部分がアンコンシャス・バイアスによるものだったのかなと思った。

【学生】　知っていた。この言葉を習った時に、今まで「女子だからお手伝いしなさい」と言われていたのが、これだったのだと思った。

【社会人】　この言葉は全く知らなかったが、内容を知って、学生の時から身近なところで潜在的にあったのかなと思った。

例えば、掃除の時間等、皆で協力して何かを行う場面で、性別で役割分担をして、男子は力仕事、女子は細々とした作業をするというようなこと。学生の時から当たり前のものとして受け入れていたが、よく考えてみると、身体的な特性はあるものの、最初から区分しているという点で、この言葉に当てはまるのかなと思った。

【委員】　「ジェンダーギャップ指数」について聞いたことはあるか。

2023 年の調査結果では、146 カ国中、日本は 125 位で下から数えた方が早い状況にあり、右肩下がりの過去最低。

政治、経済、健康、教育の４つのコンテンツのうち、健康と教育は、日本はほぼトップだが、問題は政治。国会を見ると、女性の議員はほとんどおらず、総理大臣も出ていない。また、宮崎県で言えば、女性の県知事は今まで１人もいない。

経済分野も、社長やトップに女性がいない。

私達の声を届けてくれる人達のジェンダーバランスが崩れており、男性、女性、ＬＧＢＴＱ全ての人達の想いを反映させてくれるかというと疑問に思う。そんな現状についてどう思うか。

【社会人】　性別にとらわれないで、一人一人が大きく活躍できるような社会になればと強く思う。

【社会人】　今の政治体制には問題があると思う。二世の方が活躍して地盤を固めるやり方がまだあるので、そういう状態から打破していかないと、男女平等や女性の政治参加を実現できないと考える。

【学生】　国会を見ていると、派閥等が選挙結果に影響していると思う。私自身、選挙の時に、よくニュースで見る人や強い政党等、馴染みがある人を選ぶ傾向がある。ただ、その人が何を果たそうとしてるのか、なぜ選挙に出ようとしているのか、公約をしっかり見て考えるべきだと思うので、中身をしっかり見て判断していかなければならない。

【学生】　内閣改造時の集合写真で、「女性が入りました！」というニュースの報道があるが、それを見ると、女性だからニュースになるんだなと少し悲しくなる。まずはロールモデルになりたい人を増やすことが大事だと思う。

【委員】　連合宮崎は労働組合であり、県内約３万４千人、全国で約７００万人が入っている。今、連合でも若者の意見を反映していこうということで、若者から始めようという運動をキックオフしている。

連合のトップは女性で、連合宮崎も最近まで女性の会長だった。そのため、私自身、会長が女性というのは意識しておらず、元々いた職場でも、男性が約３割だったため、上司が女性というのは当たり前だった。

ただ、数字で見ると、非常に男女の差が出ている。昇格・昇給や平均年齢の違いもあると思うが、連合宮崎でも賃金で約15%の男女格差がある。

以前、連合の会議で、就職して５～６年目の若者が集まった時に、将来不安な事は何かを尋ねたところ、ある女性から「大学を卒業して、キャリアを持って仕事をして、いずれは結婚して子供も産みたい。でも管理職にもなりたい。でも、入社して３～４年経って気づいたのは、自分のいる会社は管理職が男性ばかりなんです」との声があった。そこは課題に思っている。

【委員】　女性の活躍を考えた時に、一番変わらなければならないのは、会社、企業経営層の意識だと考える。国や県、団体で様々な取組が行われているが、一人一人を見ると、やはり足りないという印象がある。

もう一つが、女性の認識。管理職になりたいという意思を持つ女性もいるが、「私は女性だから」という認識の方もいる。

やはり幼い頃から、そういう認識を持たないような教育をしていかなければ、社会人になって男女平等と言ってもなかなか難しいのだろうと思った。

【委員】　厚生労働省の労働政策で、制度面はかなり充実してきているので、事業主の方に上手に運用していただきたい。

【委員】　男女関係なく、社会で活躍していきたいという意気込みに、すごく頼もしく感じた。学校として、そういう根本的なところを子ども達に教育していかなければいけないと思う。
以前は、生徒会役員選挙で男女を分けていたこともあったが、今は男女関係なく選ぶようになっている。制服についても、男女差をできるだけ無くす動きになっている。
先ほどの育児休業取得率が低いという話についても、取る人は以前に比べると増えてきいていると実感している。男女共同参画についての声を、それぞれが上げていく、皆さんの認識を広げていくことが大事だと思う。

【委員】　私は農業をしているが、役割を分担しながら従事しており、女性の方が決定権を持っている家庭も多いと思う。自営業のため、家庭生活と事業との区別がつきにくいところもあるが、若い人達は、今日は息子がお昼を作る番、洗濯物を干すのは息子、お迎えは息子となっている。社会の仕組みは整いつつあるので、家庭生活の仕組みの方も、声を上げていきたいと思う。

【委員】　育休取得期間の現実やアンコンシャス・バイアス、賃金格差について初めて知った、考えてみた、という発言があったが、若い人達が暮らしやすい社会に変えて行くために、知る機会や考える機会が大事になってくるのだと改めて感じた。

【学生】　気付いていないだけで、今まで思い込んでいた事もあるかもしれない。「それはおかしいよね」と気づいて、声を上げられるようになりたいと思う。また、向いていないかもしれないが、次の世代のロールモデルになれるようになりたい。

【学生】　この審議会を通して学んだ知識や情報を、同世代や次の世代

に伝えなければならないと思った。
　来年から社会人になるが、何年か経って、部下や後輩を持つことがあると思う。会社の組織としての事情があるのも分かるが、その時に、例えば育児休業であれば、自分の子供を１週間しかお世話できなかったら自分はどう思うのか等と考えることで、自分自身の意識も変わっていくと思うし、それが後進に続いていくことで日本も変わっていくと思う。

【社会人】　妻が来年から勉強のため東京に半年ほど行く予定。その間子どもの面倒を誰が見るのかという時に、自分の中では応援したい気持ちが強かったが、周りの方からは「お母さんがいなくて大丈夫なのか」と言われた。自分や妻の両親もサポートしてくれるので不安はないが、そういった周りの方の意識も変えていければ良いと思った。

【社会人】　ＳＮＳを通じて、子育ての部分等、課題を感じていた。今回審議会に参加したことで、思った以上に色々な取組が行われ、数値化されていることが分かった。この機会に知ることが出来で良かったと感じた。
　また、キャリアについても、私のようにキャリアに関して悩んでいる人はかなりいると思うので、私自身もいろいろと広めていきたいと感じた。